

■方針の基本的な考え方

2010年は、翌年4月に実施する学部再編成に向けての最終準備期間として位置づけられます。

1988年の開学以来最大規模となるこの再編成は、全ての学部において「流通」を本学の研究教育のドメインとして行っております。つまり、建学の理念にいま一度立ち戻ることで、他大学には、真似のできない、オンリーワンの大学を目指すものです。

また、将来計画であるRYUKAプラン21を見直し、それに基づき、進むべき方向を明確にした上で、教職員が連携できる運営機能の強化と意思決定のスピードアップを図り、その将来計画の完遂に努めることで、勝ち残っていくものです。

本学の教育ポリシーを下記の通りと定め、しっかりと学生を教育することに注力したいと考えます。

“流通科学大学では、「人・モノ・金・情報・サービス」などの流れを支えるあらゆる社会システムとしての流通機能を参画型授業などを通じて学び、マネジメント能力を身に付け、社会に貢献できる人材を育てる大学です。”

同時に、大学の顔であるロゴマークの変更、開学以来なかった大学校歌の新設など、この最大規模の再編を機に大学として様々な変革・新設を行います。

以上を踏まえた上で、下記の重点項目を実施していきます。

【重点項目】

1. 学生のマネジメント能力の養成（問題発見・分析・解決でき、新しいものを構想できる能力）
それに伴う、教学体制の構築（参画型授業を通じて、知識→知恵に変換する力を付ける）
（躰と社会適応力を通じて、人格形成を行う）

2. 参画型授業の実践
予習の重要性を認知させる。講義の中にQ&Aを入れる（双方向型授業）

3. For the Students（教職員全員の共通認識として）
大学として新たに行う施策を行う場合、「それが、学生（の成長）にとって良いことですか？」
を常に問いかけて実施する。

4. 学部再編成の実施
全ての学部において、流通を本学の研究教育のドメインとして行う。

以 上